



西諸合同特集

# コバカン

## ～地域を支える医療人を育てる～

コバカンの愛称で親しまれる小林看護医療専門学校が平成27年に開校され、まもなく6年。今回は小林市・えびの市・高原町の西諸合同特集として、西諸地域の医療を支えるコバカンの魅力を紹介します。



『地域で育て、地域に還元する』という地域密着型の教育をコンセプトに、地域医療を支える人材を育成している

**西** 諸地域では医療人材が不足しており、安心できる医療体制を確保するには、地域で看護師を養成し、安定的に人材を確保する必要があります。

また、西諸地域には専門学校などの高等教育機関の設置がなかったため、高校卒業後に西諸圏外に進路を求めざるを得ず、人口の流出につながっていました。

これらの課題を解決すべく、行政と西諸医師会をはじめとした地域の関係者が一体となって、小林看護医療専門学校を誘致し、平成27年4月に開校しました。

コバカンでは、これまで1000人の卒業生を送り出し、うち74人は西諸地域の医療現場で活躍しています。

### Interview ～校長先生に話を聞きました～

小林看護医療専門学校  
志戸本 宗徳 校長



**profile**  
小林市出身。医療法人芳徳会京町共立病院理事長。鹿児島大学第二内科勤務を経て、昭和57年に京町共立病院入職。平成27年の開校当初から小林看護医療専門学校校長を務め、地域医療を支える人材育成に尽力している。

### 地域医療を守るため 関係者が連携し学校を誘致

平成24年に実施された西諸医師会員へのアンケート調査では、看護学校設置について検討すべきであるとの回答が76%、看護学校が必要との回答が74%であり（グラフ①）、さらに68%の医療機関が看護職不足と回答しています（グラフ②）。

また、平成25年の調査では、58%の医療機関が地元で看護学校が

あれば、毎年複数の学生に対して奨学金給付と雇用を希望するとの結果が出ました。

一方で、西諸圏内の人口動態を見ると、人口減少や超高齢化、少子化は確実に進行しています。

このような状況下で、西諸地域の医療・福祉を崩壊させず、充実を図るためには、この分野に不可欠の看護職の充足を図ることが重要な課題になります。

その対策として、看護師養成校が西諸地域に必要であるとの機運が高まり、平成24年に西諸2市1町と西諸医師会が看護師養成校誘致組織を発足。宮崎総合学院と協議を重ねた結果、平成25年に合意に達し、平成27年4月に「小林看護医療専門学校」が西諸初の専門学校として開校しました。

### 西諸の創生・活性化へ 地域で育てる医療人

看護学科3年制で、一学年の定員40人、現在100人以上の学生が講義や実習に励んでいます。

本校の開校・運営に当たっては、西諸2市1町と西諸医師会に、市町修学サポート貸付金、医師会地

域はぐくみ奨学金、学校用地無償提供および建設費用一部助成、運営費用一部助成など、多大な援助をいただいています。

そして、地元の医療機関、福祉施設等関係機関、西諸圏外の大学や諸機関にも、学校への講師派遣や臨地実習場所の提供等に深いご理解をいただいております。

特に、コロナ禍にあつて各方面のご協力には感謝の気持ちでいっぱいです。

今は直接の交流は制限されていますが、感染拡大が落ち着いたら、今までもどおりにボランティアや各種イベントなどのあらゆる機会

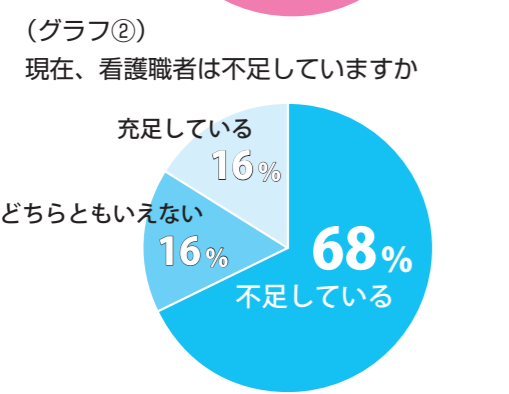
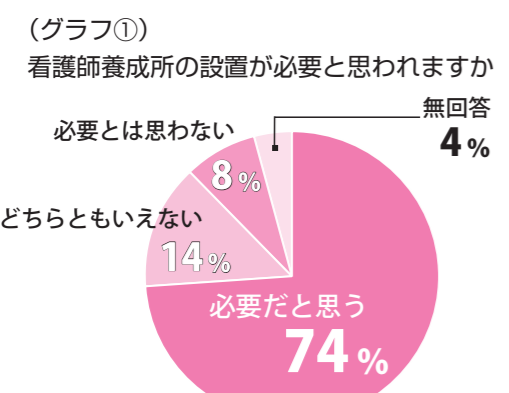
に、地域の人々との交流を深めていければと願っています。

今年4回目の卒業生を送り出し、開校7年目を迎える「コバカン」の課題は、西諸地域やそれぞれのふるさとで貢献できる有能な看護師を育てること、卒業生の地元への定着を推し進めることです。そのことで、この学校が西諸の人々に広く受け入れられ、地域創生・活性化に少しでも寄与できればと期待しています。

西諸地域の皆さまには、今後とも「コバカン」を末永く、温かくそして厳しく育んでくださるようお願いいたします。

### 看護師養成に関する調査

※西諸医師会内調査より（平成24年5月実施）



## 看護師への道のり

「看護師資格」を取得するためには、看護師国家試験に合格する必要があります。ここでは、コバカンを経て看護師として活躍するための道のりを紹介します。



**卒業後の主な就職先**  
 病院・クリニック、市町村医療センター、訪問看護ステーション、特別養護老人ホーム、保育園、老人福祉施設など

## 小林市・えびの市・高原町と西諸医師会は 看護師を目指す学生を応援します

看護学生が安心して学校生活に専念できるように、小林市・えびの市・高原町の西諸2市1町と西諸医師会が連携し、奨学金や貸付金で学校生活を応援しています。詳しい内容や申し込み方法については、事務局にお問い合わせください。

●問＝西諸地域奨学金等運営協議会事務局 Tel 27-3075

### 西諸医師会地域はぐくみ奨学金（返済免除型）

学校卒業後に、西諸地域内の医療機関に3年間従事する意思がある人向けの奨学金です

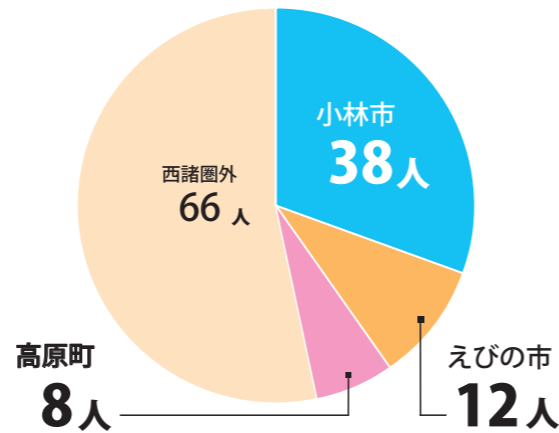
#### ■貸与額

年間110万円（3年間330万円）を貸与

#### ■返済の免除

卒業後直ちに、貸与を受けた医療機関に看護師として継続して3年間勤務することで、全額の返済を免除

## たくさんの西諸出身の若者が学んでいます！



全体の4割以上の学生が、西諸圏内の出身者です。コバカンが設立されたことで、西諸出身の若者が地元で学び、地元で働くという選択肢が増えました。

### 西諸市町修学サポート貸付金

学校卒業後に、西諸地域内の医療機関に3年間従事する意思のある人向けの貸付金です

#### ■貸与額

年間110万円を限度に貸与（無利息）

※左記の奨学金と併用する場合は、自宅通学の人は年間55万円が限度

#### ■返済

卒業後、5年以内に返済

## 看護学生の1日

コバカンでは、看護学科3学年の看護学生124人（令和2年5月1日現在）が、日々勉強や実習に励んでいます。看護学生がどのような学校生活を送っているのか、看護学科1年生の澤原翔さんの学校生活をのぞいてみましょう。



7:30  
ゼミの仲間と自主的に勉強  
ゼミでは、少人数に分かれて専任教員の指導を受けます



9:00  
実習の時間  
今日は実習の日。学生同士で「足浴」(\*)の練習をします



13:00  
午後からは授業  
午後からは座学で、基礎をしっかりと学びます



わたしの学校生活を紹介します！



18:00  
体を動かしてリフレッシュ  
体を動かすのが好きなので、ジョギングやトレーニングでリフレッシュします

看護学科1年生  
さわはらしょう  
澤原翔さん

患者さんの気持ちを理解しながら、笑顔を決やさず誰からも信頼される看護師を目指します！

※「部分浴」の一種。皮膚を清潔に保って感染症などを防ぐとともに、足先の血流を改善して血行を良くする効果がある

# 患者さんだけでなく、 家族にも寄り添える看護師へ

「その看護師さんは言葉の一つひとつが丁寧で、一生懸命看護している姿が印象に残っています」。

小林看護医療専門学校に通う足利さくらさんが看護師を目指すことになったのは、中学2年生のときの母親の入院・手術がきっかけでした。

入院が長期にわたり、日々不安が大きくなっていった足利さんの心の支えになったのが、母の療養生活を担当してくれた看護師の存在。

「母だけでなく家族のことも気にかけてくださって、たくさん優しい言葉をかけてもらいました」。

看護師は患者だけでなく家族も支えることができると知り、看護師を目指すことを決めました。

現在、看護学科の1年生。友人たちと同じ教室と一緒に看護師を目指す日々が楽しいと話す一方で、12月に初めて経験した臨地実習（病院で行う実習）では苦労の連続だったと話します。

実習の1か月前から、放課後に試行錯誤しながら練習を重ねるなど準備を続けてきましたが、「不安でいっぱい、自分が実習に行っても大丈夫なのかなという思いがあった」と足利さん。

「実際に患者さんと接するのと、学校で患者役の学生に接する学内実習は全く違っていて、上手いかないこともありました」。

しかし、実際に患者とコミュニ

ケーションを取りながら看護を実践していくなかで、「『ありがとう』や『がんばってね』という温かい言葉を皆さんがかけてくれました。すごくうれしかったです。看護師を目指してよかったなと思いました」と実習を振り返ります。

母親の入院生活を支えてくれた看護師のように、「患者さん本人だけでなく、その家族を支えられるような看護師」になりたいと、勉強と実習に励む足利さん。

看護師として経験を積み、将来は、「一つひとつの小さな命を次につなげていきたい」と助産師を目指します。



④学内実習を受ける足利さん⑤休日や夕方の時間は趣味の裁縫で息抜き。お守りやマスコットを作って友人にプレゼントしたりしています

# 患者さん一人ひとりの 個別性を大切にしたい看護を

「病院の窓口で患者さんの容体が急変しても看護師さんに委ねることしかできず、歯がゆい思いをしていました」。

小林市立病院に勤務する小林愛実さんは、以前は医療事務として病院の窓口業務を担当していましたが、もともと患者さんに寄り添いたいと小林看護医療専門学校を経て看護師になりました。

「患者さんによつては、教科書でならったとおりの病気の症状が出ないことがあったり、複数の疾患がある患者さんもいます」。

患者によつて異なるさまざまな病態や症状に対応する必要がある、毎日勉強の日々だと話す小林さん。

大変な毎日を送っていますが、「重症で入院した患者さんが回復して無事に笑顔で退院していくのを見たり、『ありがとう』と言ってもらえたときに、看護師になってよかったと実感する」と話します。



④上司や同僚に支えられながら充実した毎日を送っています⑤趣味の旅行で行った阿蘇の風景。コロナ禍のため、現在は行きたい場所を調べて旅行気分を味わっています

現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、患者の家族であっても原則面会できない日々が続く、手術の前後などに不安を抱える入院患者も多くいます。

「少し話をするだけでも、患者さんが笑顔になったり、安心したと言ってもらえます」。

入院患者だけでなく、不安を抱える家族に対しても、間に入って患者の様子を伝えるなどして心を

配っています。

専門学校では、「患者さん一人ひとりの個性を大切にすること」を学んだと話す小林さん。

「同じ疾患の患者さんでも、それぞれ性格や生活環境が違います。退院後にスムーズに元の生活を送れるように、患者さん一人ひとりの入院前の生活状況を事前に把握するように心掛けています」。

看護師となってまもなく4年目。専門学校で学んだ、「一人ひとりの個性を大切にしよう」という教えを胸に、小林さんは今日も患者さんと向き合っています。

## Interview ～現役看護師に話を聞きました～



小林看護医療専門学校卒業生（1期生）  
小林市立病院 看護師  
小林愛実さん

### これから看護師を目指すみなさんへ

看護師という職業は、人々の健康を守り、社会に貢献できるやりがいのある仕事です。私は専門職として看護師の仕事に誇りに思っています。みなさんも一緒に、地域医療を支えていきませんか。

## Interview ～看護学生に話を聞きました～



小林看護医療専門学校 看護学科1年  
足利さくらさん

### これから看護師を目指すみなさんへ

勉強や実習は大変ですが、それ以上に分からなかったことが分かるようになったり、患者さんから「ありがとう」、「がんばってね」と声をかけてもらったときの達成感や喜びは他の何物にも代えられません。私たちと一緒にコバカンで学んでみませんか。